

2019年度 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
日本語教師【初任】(活動分野:生活者としての外国人)に対する研修
教育課程・シラバス・教材等の成果物

「生活者としての外国人」のための日本語教師初任者研修 教育課程

| 回 | 科目名 | 研修方法 | 教育内容* | 単位時間数 |
|--------------------------------|---|------------------|--|-------|
| 1 | 「生活者としての外国人」のための「日本語教師」のこれから①～目指したい教師像～ | 集合研修(講義) | (2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 (4)「生活者としての外国人」の多様性 | 4 |
| | やさしい日本語① ～「伝わる」伝え方～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (3)言語サービス(多言語化・やさしい日本語) | 2 |
| 2 | 「生活者としての外国人」にとっての異文化受容 | 集合研修(講義) | (7)「生活者としての外国人」の異文化受容・適応 | 2 |
| | やさしい日本語② ～「伝わる」伝え方～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (3)言語サービス(多言語化・やさしい日本語) | 2 |
| | 会話を引き出す教授法① ～ことばのキャッチボール～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (8)学習方法 (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| | OJT実践 (やさしい日本語or会話を引き出す教授法①) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 5 |
| 3 | 「生活者としての外国人」の多様性・社会参加と「標準的なカリキュラム案」ができるまで | 集合研修(講義) | (1)国・地域の在留外国人施策 (5)外国人住民の社会参加 | 4 |
| | 会話を引き出す教授法② ～ことばのキャッチボール～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (8)学習方法 (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| | OJT実践 (会話を引き出す教授法②) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 5 |
| 4 | 事例研究① ～(千葉)千葉市国際交流協会の事例から～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 (6)「生活者」のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習 | 4 |
| | 外国語としての日本語文法 | 集合研修(講義) | (8)学習方法 | 2 |
| | OJT実践 (事例研究①千葉) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 5 |
| 5 | OJT「実践」の振り返り (事例研究①千葉) | 集合研修(講義) | (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| | 事例研究② ～(福島)蓬莱日本語教室の事例から～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 (4)「生活者としての外国人」の多様性 | 4 |
| | OJT実践 (事例研究②福島) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 5 |
| 6 | 事例研究③～(東京)社会福祉法人さぼうと21学習支援室の事例から～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (12)コースデザイン演習 (13)日本語能力の評価 | 4 |
| | 教材作成 ～その場でできる教材づくりのコツ～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (10)「生活者としての外国人」のための教材・教具のソース | 2 |
| | OJT実践 (事例研究③東京) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 5 |
| 7 | OJT「実践」の振り返り (事例研究②福島) | 集合研修(講義) | (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| | さまざまなアプローチ① ～学習者の言いたい気持ちを大切に～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (8)学習方法 (11)各種指導法、教授法 | 4 |
| | OJT実践 (さまざまなアプローチ①) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 5 |
| 8 | さまざまなアプローチ② ～学習者の言いたい気持ちを大切に～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (8)学習方法 (11)各種指導法、教授法 | 4 |
| | OJT「実践」の振り返り (さまざまなアプローチ①) | 集合研修(講義) | (12)コースデザイン演習 | 2 |
| 9 | さまざまなアプローチ③ ～学習者の言いたい気持ちを大切に～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (8)学習方法 (11)各種指導法、教授法 | 4 |
| | OJT「実践」の振り返り (事例研究③東京) | 集合研修(講義) | (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| 10 | 「生活者としての外国人」のための「日本語教師」のこれから②～成長する教師～ | 集合研修(講義) | (1)国・地域の在留外国人施策 (4)生活者としての外国人」の多様性 | 4 |
| | 研修の振り返り・課題の共有 | 集合研修(講義) | (14)指導力の評価 | 2 |
| *『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)』より | | | | 90 |

「生活者としての外国人」のための日本語教師初任者研修 教育課程

| 回 | 科目名 | 研修方法 | 教育内容* | 単位時間数 |
|--------------------------------|--|------------------|--|-------|
| 1 | 日本語教育界の大きな変化について | 集合研修(講義) | (1)国・地域の在留外国人施策 (2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 | 4 |
| | やさしい日本語① 基礎編 | 集合研修(講義・ワークショップ) | (3)言語サービス(多言語化・やさしい日本語) | 2 |
| | OJT実践 (やさしい日本語①) | 実践研修 | (3)言語サービス(多言語化・やさしい日本語) (11)各種指導法、教授法 | 6 |
| 2 | これからの日本語教師に求められること | 集合研修(講義) | (2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 (4)「生活者としての外国人」の多様性 | 2 |
| | やさしい日本語②/ OJT実践の振り返り(やさしい日本語①) | 集合研修(講義) | (3)言語サービス(多言語化・やさしい日本語) (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| | やさしい日本語③ 実践編 ～外国人留学生と話してみよう～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (3)言語サービス(多言語化・やさしい日本語) | 2 |
| 3 | たくさん話す工夫① ～can-doを用いたアプローチ～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (8)学習方法 (9)日本語の学習・教育の情意的側面 (11)各種指導法、教授法 | 4 |
| | 生活者としての外国人の声 | 集合研修(講義) | (4)「生活者としての外国人」の多様性 (5)外国人住民の社会参加 (7)「生活者としての外国人」の異文化受容・適応 | 2 |
| | OJT実践 (たくさん話す工夫①) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 6 |
| 4 | たくさん話す工夫② ～語彙からのアプローチ～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (8)学習方法 (9)日本語の学習・教育の情意的側面 (11)各種指導法、教授法 | 4 |
| | 共生社会における日本語教師の役割と可能性 | 集合研修(講義) | (2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 (5)外国人住民の社会参加 | 2 |
| 5 | 事例研究① ～(千葉)千葉県国際交流協会の事例から～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 (6)「生活者」のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習 | 4 |
| | OJT「実践」の振り返り (たくさん話す工夫①) | 集合研修(講義) | (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| | OJT実践 (事例研究①千葉) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 6 |
| 6 | 事例研究② ～ひらがなネット株式会社の事例から～ | 集合研修(講義) | (5)外国人住民の社会参加 (7)「生活者としての外国人」の異文化受容・適応 | 4 |
| | 事例研究③ ～NPO法人PEACEの事例から～ | 集合研修(講義) | (4)「生活者としての外国人」の多様性 (6)「生活者」のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習 | 2 |
| | OJT実践 (事例研究②ひらがなネット) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 6 |
| 7 | OJT「実践」の振り返り (事例研究①千葉) | 集合研修(講義) | (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| | 事例研究④ ～(福島)蓬莱日本語教室の事例から～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 (4)「生活者としての外国人」の多様性 | 4 |
| 8 | 事例研究⑤ ～(東京)社会福祉法人さぼうと 21学習支援室の事例から～ | 集合研修(講義・ワークショップ) | (12)コースデザイン演習 (13)日本語能力の評価 | 4 |
| | OJT「実践」の振り返り (事例研究②ひらがなネット) | 集合研修(講義) | (11)各種指導法、教授法 | 2 |
| | OJT実践 (事例研究⑤東京) | 実践研修 | (11)各種指導法、教授法 | 6 |
| 9 | 教育実践のための技能 | 集合研修(講義) | (13)日本語能力の評価 | 4 |
| | OJT「実践」の振り返り (事例研究⑤東京) | 集合研修(講義) | (11)各種指導法、教授法 (12)コースデザイン演習 | 2 |
| 10 | 日本語教師の成長と自己研修 | 集合研修(講義) | (14)指導力の評価 | 4 |
| | 研修の振り返り・課題の共有 | 集合研修(講義) | (14)指導力の評価 | 2 |
| *『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)』より | | | | 90 |

2018年度シラバス

| 科目名 | 到達目標 | 授業計画(授業概要) | 使用教科書 |
|---|--|---|-------|
| 「生活者としての外国人」のための「日本語教師」のこれから① 目指したい教師像 | 現在の日本における外国人受入れの現状と国の動きについて理解し、自身がどんな日本語教師を目指したいかを意識化する。 | 外国人と日本人の間の異文化間理解の重要性と地域における日本語教育の多様な学びについて考える。 | なし |
| 「生活者としての外国人」にとっての異文化受容 | 今後ますます進む多文化共生社会における異文化受容の重要性について考え、自らを省みて、自身のなりたい日本語教師像を描く。 | 生活者としての外国人が遭遇する困難や疑問について知り、異文化間理解のためのワークショップを通して自らを省みる。 | なし |
| 「生活者としての外国人」の多様性・社会参加と「標準的なカリキュラム案」ができるまで | 国の外国人施策を学ぶ。また、文化庁の外国人施策である「生活者としての外国人」のための地域の取り組みを詳しく理解する。 | 在留外国人の現況、各省庁の外国人施策、日本語教育に関する取り組みを紹介 「生活者としての外国人」に対する日本語教育のカリキュラム案について理解する。 | なし |
| やさしい日本語① 「伝わる」伝え方 | 「やさしい日本語」の背景(災害時・平時)を知り、言い換えを体験する。わかりやすい伝え方を身に着ける。 | 「やさしい日本語」のポイントを理解する。言い換えの練習をする。 | なし |
| やさしい日本語② 「伝わる」伝え方 | 「わかりやすさ」について考察する。「やさしい日本語」を使って、書き換えを体験する。伝わりやすい書き方を身に着ける。 | 「やさしい日本語」のポイントを理解する。書き換えの練習をする。 | なし |
| 会話を引き出す教授法① ことばのキャッチボール | 理解しやすい言葉でコミュニケーションを取る。一方通行にならないように学習者から話を引き出す技術を身に着ける。 | 「好きなもの、好きなこと。好きな所、好きな人」という話題で、いろいろな聴き方を体験し、感じたことを共有する。 | なし |
| 会話を引き出す教授法② ことばのキャッチボール | 日本語がゼロの人とコミュニケーションを取り、話を広げる技術を身に着ける。 | 日本語がゼロの人と自己紹介をする手法を考える。話を広げ、書かせて言わせるところまでをやってみる。 | なし |
| 事例研究①(千葉) 千葉県市際交流協会 | 地域日本語教室の現状を知ることで「生活者としての外国人」の多様性を理解し、日本語教師として求められる技能について考える。 | 千葉市の現状を紹介する。「対話型日本語クラス」について理解し、対話活動をやってみる。 | なし |
| 外国語としての日本語 文法 | 文法の知識は教室活動の支えになっていることを認識する。話せるようになるための「文法」とは何を指すのかを考える。 | 学習者の誤用や質問にどう答えたらいいのか。日本語能力試験に見る求められる日本語能力について考察する。 | なし |

| 科目名 | 到達目標 | 授業計画(授業概要) | 使用教科書 |
|---|---|---|----------------|
| 事例研究②(福島) 蓬萊日本語教室 | 地域日本語教室の現状を知ることで「生活者としての外国人」の多様性を理解し、日本語教師として求められる技能と資質について考える。 | 蓬萊日本語教室独自の様々な取り組み事例を参考にし、「誰のための日本語教室か」という問いに対して考える。 | なし |
| 事例研究③(東京) さぼうと21学習支援室 | さまざまな学習者について知る。「標準的なカリキュラム案」を参考に、ニーズに応える教室活動の設計を行う。 | さぼうと21の実践を紹介。「標準的なカリキュラム案」を参考にした教室活動を設計してみる。 | なし |
| 教材作成 その場でできる教材づくりのコツ | 短時間で相手に伝えたいことが伝わるイラストを描くコツを身に付け、教室活動の教材として生かせるようにする。 | 5秒で描けるイラストの心構え 線や図形を使って描くコツ 表情、動作、状況の描き分けのコツ イラストを活用した授業体験 | なし |
| さまざまなアプローチ① 学習者の言いたい気持ちを大切に | Can-do型の会話学習を実践してみる。 学習者の言いたい気持ちをを引き出し、学習につなげる方法を身に着ける。 | Can-do型授業の実際を体験 『WEEKLY J』からトピックを取り上げ授業を組み立ててみる。 | Weekly J Book1 |
| さまざまなアプローチ② 学習者の言いたい気持ちを大切に | 学習者の言いたい気持ちを大切にしつつ、語彙の学習について考える。また、学習者の持続的な学びにつなげる教室活動を考える。 | 『きりり☆日本語 語彙』(N5,N4,N3)の構成や内容、練習問題を参考にし、語彙の学習について考える。効果的な教室活動を考案しロールプレイで検証、共有する。また、学習者が自力で学習する方法を探る。 | きりり☆日本語 語彙 |
| さまざまなアプローチ③ 学習者の言いたい気持ちを大切に | 発話を促す技術を身に着ける。 学習者の言いたい気持ちをを引き出し、学習につなげる方法を考える。 | コミュニケーションを取りながら文型を導入する例を見て、グループで教案を作り、共有する。 | なし |
| 「生活者としての外国人」のための 「日本語教師」のこれから② 成長する教師 | 学習者(児童生徒を含む)の状況、各機関の取り組み、日本語教室の役割について現状を再確認し、教師としての成長について考える。 | 学習者(児童生徒を含む)の状況、各機関の取り組みを紹介し、日本語教室の役割を考える。「参加型学習」について知る。「成長する教師」として自分に課題を出す。 | なし |
| 研修の振り返り・課題の共有 | 研修全体を振り返り、講座受講による自らの成長を自己評価し、これからの日本語教師としてのさらなる成長計画を立てる。 | 受講生全員が振り返り内容と自身の成長後の姿を発表し全体で共有する。「生活者としての外国人」のための日本語教育について再度考える。 | なし |

2019年度シラバス

| 科目名 | 到達目標 | 授業計画(授業概要) | 使用教科書 |
|------------------------------|--|--|----------------|
| 日本と教育界の大きな変化について | 大きな変革期を迎えている日本語教育界の現状を詳しく理解する。 | 日本語教育界の現状を踏まえ、「標準的カリキュラム案」「日本語版CEFR」も参考に、今後の日本語教師の在り方について考える。 | なし |
| これからの日本語教師に求められること | 今後ますます進む多文化共生社会において、自身がどんな日本語教師を目指したいかを意識化する。 | 外国人人材受入れと育成の必要性と、国の取り組みについて知った上で、異文化間理解の重要性について考える。 | なし |
| やさしい日本語① 基礎編 | 「やさしい日本語」の背景(災害時・平時)を知り、「わかりやすさ」について考察する。わかりやすい伝え方を身に着ける。 | 「やさしい日本語」のポイントを理解したうえで、言い換えや書き換えの練習をする。 | なし |
| やさしい日本語②実践編 外国人留学生と | 実際に複数の外国人と話してみ、目の前の相手にとってやさしいとは何かを考え、臨機応変に対応する力を養う。 | 外国人(留学生)を相手に「防災」について伝える。わかりやすく話せたか、留学生と受講者からの指摘を受ける。 | くらし防災 |
| たくさん話す工夫① 学習者の言いたい気持ちを大切に | Can-do型の会話学習を実践してみる。学習者の言いたい気持ちを引き出し、学習につなげる方法を身に着ける。 | Can-do型授業の実際を体験 『WEEKLY J』からトピックを取り上げ授業を組み立ててみる。 | Weekly J Book1 |
| 生活者としての外国人の声 | 生活者としての外国人から学習方法や日本語教室での体験などを聞いて、求められる教師像について考える。 | 地域の日本語教室で勉強している(勉強した)3名の生活者の方の話聞き、質疑応答。今後実践したいことや得られそうな成果について共有する。 | なし |
| たくさん話す工夫② 語彙からのアプローチ | 語彙の学習について効果的な方法を考え、日ごろ教室活動に生かす。また、学習者の持続的な学びの支援ができる教師を目指す。 | 『きりり☆日本語 語彙』(N5,N4,N3)の構成や内容、練習問題を参考にして、語彙の学習について考える。効果的な教室活動を考案しロールプレイで検証、共有する。また、学習者が自力で学習する方法を探る。 | きりり☆日本語 語彙 |
| 共生社会における日本語教師の役割と可能性 | 今後ますます進む多文化共生社会において、自身がどんな日本語教師を目指したいかを意識化する。 | 生活者としての外国人が遭遇する困難や疑異文化間理解のためのワークショップを通して自らを省みる。 | なし |

| 科目名 | 到達目標 | 授業計画(授業概要) | 使用教科書 |
|--------------------------|---|---|-------|
| 事例研究①(千葉) 千葉県国際交流協会 | 地域日本語教室の現状を知ることで「生活者としての外国人」の多様性を理解し、日本語教師として求められる技能について考える。 | 千葉市の現状の紹介 対話型日本語クラスについて理解し、対話活動をやってみる。 | なし |
| 事例研究②(東京) ひらがなネット株式会社 | 株式会社として日本で暮らす外国人のサポートをしている事例を通して、多様な多文化共生の形を学ぶ。また実際の活動例から外国人と共にどのように活動を作り上げていくかを学ぶ。 | 株式会社ひらがなネットの設立経緯や活動内容などを紹介。また実際の活動例を基に活動を作り上げていく過程を体験する。 | なし |
| 事例研究③ NPO法人PEACE | NPO法人としての活動と日本語教室開講の背景と思い、また教室開講前のニーズ調査の結果をカリキュラムにどのように反映させるかを学ぶ。日本語を学ぶことで学習者の生活がどう変わったか、日本語を学ぶ大切さや意味を知る。 | NPO法人PEACE設立の背景とPEACEの事業教育事業の概要の紹介。 大人のための日本語教室開講の背景と思い、また学習者の変化を知る。 | なし |
| 事例研究④(福島) 蓬莱日本語教室 | 地域日本語教室の現状を知ることで「生活者としての外国人」の多様性を理解し、日本語教師(初任)として求められる技術と資質について考える。 | 福島市の日本語教室の現状を知り、さまざまな取り組み事例を参考にし、日本語教師初任者として学習内容やスタイルを考える。 | なし |
| 事例研究⑤(東京) さぼうと21学習支援室 | さまざまな学習者について知る。「標準的なカリキュラム案」を参考に、ニーズに応える教室活動の設計を行う。 | さぼうと21の実践を紹介 「標準的なカリキュラム案」を参考にした教室活動を設計してみる。 | なし |
| 教育実践のための技能 | レベルチェック・ニーズ分析・評価に焦点を当て、日本語教育技能がどう生かせるかを考える。 | レベル分けの意義とその方法 ニーズ分析の意義とその方法 学習目標につながる評価 教育技能の自己研鑽 | なし |
| 日本語教師の成長と自己研修 | 学習者の状況、各機関の取り組み、日本語教室の役割について現状を再確認し、教師としての成長について考える。 | 学習者の状況、各機関の取り組みを紹介し、日本語教室の役割を考える。「成長する教師」として自己採点してみる。 | なし |
| 研修の振り返り・課題の共有 | 研修全体を振り返り、講座受講による自らの成長を自己評価し、これからの日本語教師としてのさらなる成長計画を立てる。 | 受講生全員が振り返り内容と自身の成長後の姿を発表し全体で共有する。「生活者としての外国人」のための日本語教育について再度考える。 | なし |

課題：「やさしい日本語」を使う（課題① 担当：齋藤美幸）

| | |
|--|----------------------|
| 目標・実施計画（具体例、教案など） | 何をする？ やってみようと思うこと |
| 目標：「やさしい日本語」を使って話す 具体例：学習者さんがわからないという表情をしたら、言い換えて話す。 受け手の目線（立場）で話をするように心がける。 ことばを別のことばに言い換えるのではなく、文にして話したり、状況を説明したり工夫する。 学習者さんの話をよく聞く。我が事として受け止める。 分かったかどうか内容の質問を工夫する。テストのようににならないように気をつける。 | |
| 実施日と内容 11月6日 15:30 ~ 17:00 ネパール男性（15歳） | |
| 内容：好きなことについて話した。川に飛び込むのが好きだとのこと。 「泳ぐ、飛び込む、怖くない、楽しい、冷たい、」など言いたいのに知らない言葉ばかりで、大変そうだった。スマホで写真を見せてもらいながら、言いたそうにしていることを1つずつ日本語にしていって。 | 何をした？ やってみたこと |
| 気づきや改善点 | よかったこと よくなかったこと |
| 本当にゆっくり話さないと伝わらないことがよくわかった。 言いたいことが出てくるまで待つ時間は、とても長く感じた。 沈黙の時間、私は長く感じたが、学習者さんはそれほどでもないようだった。嬉しそうに次を話してくれたと感じた。時間がゆったり流れて気持ちがよかった。 やっぱり、待てずに話しかけてしまったときが何度かあった。 | |
| 今後に向けて | 新たな工夫など |
| 今回「やさしい日本語」を学んだ後、意識するようになって、私は普段から、人と話すときに先走ったり、相手の話を取ってしまうようなことが多いことがよくわかりました。工夫としては、「相手が何を言いたいのだろう」といつも意識するようにし、学習者さんからたくさんいろいろな話を聞くのを楽しみます。 | |

課題：

| | |
|-------------------|-----------|
| 目標・実施計画（具体例、教案など） | |
| | |
| 実施日と内容 | 月 日 : ~ : |
| | |
| 気づきや改善点 | |
| | |
| 今後に向けて | |
| | |

振り返りシート

氏名

()
第 回： 年 月 日

●講座名：
講師：

1.今回この講座に出て、新しく知った知識や情報と自分の気づきを書いてください。
・新しく知ったこと

・気づき

2.今回この講座に出て、新しく知った知識や情報と自分の気づきを書いてください。
・新しく知ったこと

・気づき

3. この講座に関連することについて、今後、実践の場でどのような活動をしようと思いますか。具体的に書いてください。

☆この講座についてご意見をお寄せください。

「生活者としての外国人」のための日本語教師初任者研修 お申込みアンケート

*必須

メールアドレス *

メールアドレス

お名前（漢字）をご記入ください。 *

回答を入力

お名前（フリガナ）をご記入ください。 *

回答を入力

所属をご記入ください。 *

回答を入力

地域の日本語教室で教えた経験はありますか。 *

- なし
- ～3年
- 4年以上

該当するものにチェックをしてください。 *

- 日本語教師養成講座 420時間修了
- 日本語教育能力検定試験合格
- 大学での日本語教育専攻・副専攻
- その他:

希望する受講方法をお選びください。 *

- 通学
- w e b

メッセージ等ありましたらお書きください。

回答を入力

■ご注意事項

※本研修では、現場での実践を行っていただきます。実践の場（地域日本語教室）をお持ちでない方は、講座開始までに、どちらかに所属いただきますようお願いいたします。

送信

最終アンケート

氏名 ()

全研修を終えての皆様の忌憚のないご意見をお聞かせください。どうぞよろしく申し上げます。

- 1 10回の回数はどうでしたか 多い 適度 少ない
(最終日はキャンセルでした)
- 2 研修1日の時間数はどうでしたか 多い 適度 少ない
- 3 研修内容に関してはどうでしたか。ご意見をお聞かせください。

改善点：

ご要望：

- 4 録画に関して、ご意見がありましたら、お知らせください。

- 5 その他

Web 受講の方にお聞きします

- 1 音声、画像、資料の映り具合などについてはいかがでしたか。
- 2 Web 上で発言を求められることに対してはどうでしたか。
- 3 グループで話すことに対してはどうでしたか。
- 4 改善点やご要望をお聞かせください。

ありがとうございました。また、会いましょう！！

「生活者としての外国人」のための日本語教師初任者研修スケジュール

* OJTの課題「あり」の日は、
それぞれの現場で実践を行ってください。
課題は当日出します。

| | 日にち | I 9:30～11:00 | II 11:10～12:40 | III 13:40～15:10 | * OJTの 課題 |
|------|-----|-----------------------------|-------------------|---------------------------------|--------------------|
| 第1回 | 月 日 | 科目名 ～サブタイトル～ 講師名 | | | |
| 第2回 | 月 日 | | | | あり 課題が出る 科目名 |
| 第3回 | 月 日 | | | | |
| 第4回 | 月 日 | ……の事例研究① ～サブタイトル～ 講師名 | | | |
| 第5回 | 月 日 | | | | |
| 第6回 | 月 日 | | | ……の事例研究① OJT(実践)の振り返り 講師名 | |
| 第7回 | 月 日 | | | | |
| 第8回 | 月 日 | | | | |
| 第9回 | 月 日 | | | | |
| 第10回 | 月 日 | | | | |

2018年度 2019年度『生活者としての外国人』に対する日本語教師初任者研修を受講いただいた皆様へ

追跡アンケート調査

1. 所属 ・受講当時（例：日本語学校非常勤講師・地域日本語教室ボランティア）

・現在 または、今後進もうと考えている方面

2. 研修を受講して、現在の活動の参考になったことがあれば、お書きください。

3. 将来の方向について考える際に、参考になったことがあれば、お書きください。

4. 改めて、講座に希望することなどがありましたら、お書きください。

ご協力ありがとうございました。